

神奈川県立藤沢養護学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	第3回神奈川県立藤沢養護学校 学校運営協議会		
開催日時	令和5年2月14日（火曜日） 午前9時30分～11時30分		
開催場所	神奈川県立藤沢養護学校 第二被服室		
出席者	運営協議会委員7名（本校校長を含む） 事務局教職員11名		
次回開催予定日	令和5年6月中旬 開催予定		
問合せ先	所属名 藤沢養護学校 副校長 電話 番号 0466-82-9413 ファックス番号 0466-83-3520		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
会議経過	<p>1 開会</p> <p>2 学校長挨拶 ・学校長から、挨拶及び令和4年度学校運営総括して報告があった。</p> <p>3 会長挨拶 渡邊会長から挨拶をいただいた。</p> <p>4 報告事項 (1)令和4年度学校評価(校内評価)について 総括教諭より説明 (2)地域と協働した取り組みについて 総括教諭より説明 (3)学校評価アンケート結果について 副校長より説明</p>		
意見聴取	<p>5 協議事項 (1)令和4年度学校評価(学校関係者評価)について 意見・質問等 (意見)エンリー授業(主体的な授業公開)が増えている。「他の教員の視点を入れた授業改善」に対して、質的な面を評価する必要がある。 (質問)専門職(自立活動教諭)の授業への関わりを具体的に知りたい。 相談しやすい雰囲気大切である。「相談してよかった」という実感が、個別教育計画の参画に結び付くと考える。 ⇒立ち方、歩き方、姿勢づくりに関することや、刺激の調整、心理的な安定に関することなどに主に関わっている。授業に取り組む基盤が整うことにより、子どもの変容に繋がっている。日常の延長上に、個別教育計画の立案や評価への参画となるよう進めていきたい。 (意見)通学支援の在り方プロジェクトの成果を基に、次年度実践するとあ</p>		

る。社会参加には、公共交通機関の利用も含めた移動の支援が重要である。継続することで、効果が見られる。やり続けることが大切である。

(意見)空間的な移動は、時間的な移行に繋がる。移動を支援することは、進路選択の幅を広げることであり、進路指導も繋がる取り組みである。

(意見)一人で移動することが難しくとも、スモールステップで、継続することが成長に繋がる。この取り組みが、移動の力をつける後押しになることを期待する。

(質問)「生活年齢に応じた」という言葉が出てくる。「発達年齢に応じた」とは違う、「生活年齢」のとらえは、キャリア教育の視点から大切なことである。このことを踏まえ、小中高の繋がりをどのように意識していくか。

⇒授業改善と並行して、各教科の内容を整理している。学習指導要領にある、各学部目標及び内容はまさに、生活年齢に即したものである。小中高と繋がった取り組みに加えて、発達段階に応じた支援をしていくことが重要と考えている。

(意見)各学部それぞれにめざす子ども像があるが、学校全体としてどのように育てていくかのプロセスが見えない。このことを作っていくことが次のステップに繋がると考える。

(2)地域の中でのキャリア教育について

意見・質問等

(意見)地域の資源の一つとして、学校運営を全面的にサポート、学校から依頼があれば、応じていく姿勢である。学校と地域が繋がるアイテムとして、いくつか提案した経緯があるが、提案が業務増となることを懸念する。

(意見)新しい取り組みは、依頼を受けて取り組む⇒実績を積み重ねる⇒一緒に取り組みを行うと進んでいく中で、双方に定着するのではないかと考える。

(意見)地域との連携は大切な視点だが、組織の体力を考慮しつつ、子どもたちの社会性を育てていくこと支えていくことが協議会の役割になる。

(意見)特別支援学校に在籍する児童生徒の居住地はとても広い。「地域」をどのようにとらえ、何を「キーワード」としていくか、工夫を要する。

(意見)学校間交流の報告の中で、相手から受けものに、返したいという子どもの思いを感じた。コロナ禍で、オンラインでの交流となったが、直接関わり空気感を共有することで、お互いの理解が深まるのではないかと考える。負担感なく、双方に学びがある取り組みが、継続の秘訣である。

(意見)地域には、様々な活動をしている団体がある。地域との接点を点から線、面に広げていく手段として、地域の団体の企画を活用してほしい。そのことにより、お互いの理解が進むと考える。

(意見)地域の方と一緒に活動できることがポイントではあるが、一区画を課業時間で清掃するなど、地域の活動の一部分に関わる方法を考えることが大切である。

(意見)地域では、福祉、医療、教育の協働という視点で、研修会が企画され、一緒に学習を行う取り組みが始まっている。先生方と一緒に学びたいというニーズがある。通学支援について、福祉と教育の連携の中で、見えてくるものがあるかと感じた。

	<p>(意見)「働き方改革」が進む中、持続可能な取り組みとするためには、知恵を絞る必要がある。学校運営を応援するサポーターとして、学校運営協議会のメンバーに知恵を求めていただければ、喜んで協力したい。</p> <p>6 閉会 (学校長) 次年度は、4年間のまとめの1年であり、次の4年間に向かう年となる。令和10年の肢体不自由教育部門の開設を視野に、進めていきたい。サポーターという言葉をいただき、大変心強い思いである。 今年1年間の協力に感謝申し上げます。</p>
<p>会 議 資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度学校評価報告書 ・ 令和4年度学校評価アンケートまとめ ・ 地域と協働した取り組みについて (報告) ・ 学校目標キーワード